

# 映画名言集②

～ 一言英語レッスン ～



Hisanao

## 映画名言集② ～一言英語レッスン～

---

5月の「映画名言集① ～One Movie One Message～」でも書きましたが、

一つの映画ごとに気に入った言葉を一つ書き留める、変わった趣味があります。

実は同じことを小説でも続けていて、漫画は書かなくてもなぜか覚えてしまうのですが、

名言シリーズを他にも書いていきたいなと思っています。

前回の映画名言集①では「人生」をテーマにまとめたので、

今回は「少し物事の見方が変わる」一言を集めてみました。

夏休みはぜひ映画と共に

「そのうち」にしていたことをのんびりじっくり考えてみてはいかがでしょうか。

-----

・ *First is everything.*

- ソーシャルネットワーク

・ 結局はなんとかなるもんだな。右も左も分からず走り出してみても

- レイルウェイズ

・ 思うがままにとか、自由に生きるとか、そんなんほんの一部の人間に限られたことなんだよ！

- モテ期

・ *Just money. Just the number.*

- バーレスク

・ 震えて眠れ

- 犯人に告ぐ

・ それぐらい、やれよ

- クライマーズハイ

・ *There is a difference between knowing the path and walking the path.*  
道を知っていることと、道を歩くことは違う

- マトリックス

・ 慣習？慣習だからあきらめるの？

- 孤高のメス

・ すぐ行く。走って行く！

- 時をかける少女

・ *So long, partner.*

- トイストーリー3（最後のセリフ）

-----  
[一言英語レッスン]

(トイストーリー3を観てない人は読まない方がいいです)

最後の"*So long, partner*"について。

これは持ち主のアンディと永遠の別れを決めたウッディの、自分を子どもの世界（保育園）に託し、大人の世界（大学）へ向かっていくアンディの車の後ろ姿への、最後のお別れの言葉。

日本語訳では、「あばよ、相棒」とアンディらしくかっこよくきめていたのですが、せっかくなので覚えてほしいのが"*So*"の感覚。

この"*So*"には「本当に...」という強い感情が含まれています。

私は21歳まで日本のみで英語を独学で学び、9ヶ月間UCLAに交換留学し、帰国後TOEICで満点をとっているの、（だから信じていいはず。笑）

ほとんどの人と同じく「so that構文」から全ては始まりました。

「soがきたら必ずthatが来る！」と教わったと思うのですが、今だから分かるその原理は、

「soには強い感情が含まれているから、必ずその後には何か言いたいことが来る！」です。

「本当に○○だから、俺は□□したいんだ！」のような自然な会話の流れを、公式にして先に頭にたたきこんでいたのがso that構文。

...このような構文を嫌う人は本当に多いですが、日本の英語教育は決してバカにされるようなものではないと、990点の私は信じています。長くなるので機会があればまた。笑

だからこの場合、"Good bye, partner"ではなく"*So long, partner*"で終わったのは、

アンディを、自分で遊ぶ子供の頃から、家を旅立つ大人になるまでずっと見守ってきたウッディの、

「本当に...、本当に長い間一緒にいたんだな、相棒」

という感無量の感情が、この別れの一言につまっているからだと感じ、

ウッディもアンディも泣いていないのに、なぜか私が泣いてしまいました。笑

このように、英語独特の感覚やリズム、表現のカッコよさや面白さがつまっているので、

ぜひストーリー、名言、英語自体という様々な角度からも、映画を味わってみてください。

\*\*\*\*\*

著者ブログ：[「一步世界へ ～英語と感動のある人生へ～」](#)

著者ビデオ：[TOEIC満点の無料英会話講座 \(YouTubeチャンネル\)](#)

\*\*\*\*\*

Twitter：<https://twitter.com/Nao1370>